

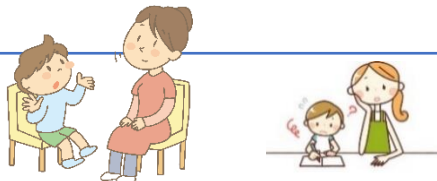
家庭学習応援だより

第4号

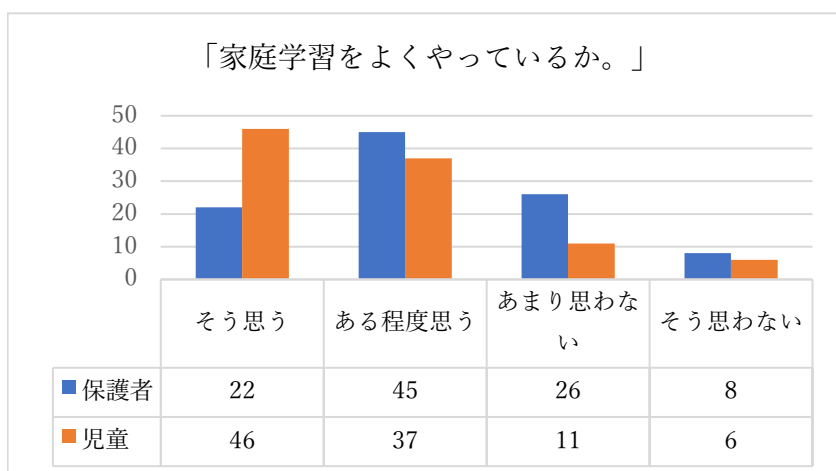
先日の「学校をよりよくするためのアンケート(保護者用)」では、「自主学習のやり方がわからず、実行する習慣がつかえません。」「授業についていけないので、宿題もわからないところがある。」とのご意見がありました。ありがとうございます。こうした保護者の生の声がいただきたかったです。このお便りに限らず、書かれている通りに声かけしてみたのに、我が子は全く変わらず、というのはよくあり、子育ての難しさを改めて感じます。

今号では、こうしたアンケート結果やご意見をもとに、家庭学習について、これまでより忬度ぬきに、一步踏み込んで、考えていきたいと思ひます。

親子のギャップ



まず、アンケートの結果から、子供たちと保護者には、家庭学習に対するギャップがあることがわかります。下図をご覧ください。子供は子供なりに「(宿題と勘違いしているかもしれませんが)家庭学習は、よくやっている。」と思っています。家庭学習の主体は、もちろん子供ですから、親から「家庭学習は、やったの?」「自主学習をやりなさい。」と言われても、子供からすると、「やってるのに…!」となるわけです。



また、「そう思わない」児童と保護者の数が、ほとんど差がないのに比べて、それ以外の項目はギャップがあり、特に、「そう思う」の数には大きな差があることが、アンケートから見えてきます。児童の半数近い46人が「家庭学習をよくやっている」と回答している実態をどう捉えますか。これを機に、ご家庭であらためて家庭学習について話題にしてみてください。

「学校をよりよくするためのアンケート」の集計結果より(7月16日配付済み)

では、なぜ、親子の意識にギャップが、できたのでしょうか。いくつか理由が考えられると思ひます。

- ・ **親の理想が高すぎる** または **子供の自己評価が高すぎる**
→親は子供のこととなると欲張りになりがちです。「もう少しできるんじゃない。」と思ひていませんか?
→子供は自らの活動や取組を高く評価する傾向があります。実際はちょっとでも、「よくやった」ことにしているのかもしれない。
- ・ **親子ともに無計画であるため実情を把握できず、正確な回答が難しい**
→家庭学習をする前に計画を立てていれば、親子ともに取組に対する確認や賞賛ができ、上図のような意識のギャップは起こらないと思ひます。
- ・ **親は声かけだけで、内容の確認をしない** または **子供は「やったよ」というだけで、学習の中身は見せない**
→声かけだけでは確認不足ではないでしょうか。また、実際に取組を見てあげることで、子供の得意や苦手を発見することにもつながり、子供の学習について現状や実態の把握ができます。
→親が取組の過程を認めず、結果のよし悪しばかりを評価すると、子供はテストだけでなく、他のことも親に隠すようになってしまいます。

悩みにお応えします



遊び盛りの小学生にとって、家庭での学習習慣はなかなか定着しにくいものです。とはいえ、できれば小学生のうちにしっかり学習習慣をつけ、自信をもたせ、自立した学習を進められるようにしたいのが親の本音ですよね。しかし、大人は仕事や家事で忙しく、つきっきりで勉強を見てあげるのも大変です。「うちのやり方でいいのかな。」「何が正解なのかな。」とお悩みの方もいるのではないのでしょうか。ここでは、お子様の学習意欲の高め方や習慣化させるコツなど、アンケートにあった保護者の悩みやご意見に、一つ一つお応えしていきます。

1.「自主学習のやり方がわからず、実行する習慣が付きません。」

家庭学習を習慣づけるには、具体的にはどのようにサポートすればよいのでしょうか。思いつきやすい方法としては「その日の目標を立てる」「ノルマを設定する」などがありますが、小学生が一人で行うには少しハードルの高い方法です。そこで少し難易度を下げ、「一緒に計画を立てる」「学習時間を決める」というところから始めてみましょう。また、苦手教科からだと取り掛かりにくいので、得意教科から取り組んでみるのもよいかもしれません。

○ 一緒に学習計画を立てる

一緒に計画を立てる場合は、「次の月例テストで80点を取る」などの目標を決め、それに合わせて「1日にドリル2ページ」など具体的な目標を決めていくとよいでしょう。ポイントは、スモールステップです。お子様のやる気が出るよう、勉強できた日にはカレンダーにシールを貼るようにして努力の過程を見える化(これをラーニングログと言います)したり、計画通りできた最終日には、ちょっとしたご褒美の約束をしたりしてもいいかもしれません。

○ 学習時間を決める

学習時間を決める場合は、宿題の時間のほかに「1日10分×学年」で時間を計算してみましょう。例えば、1年生なら1日10分、6年生なら1日60分です。学年に合わせて少しずつ時間を伸ばしていけるため、家庭学習を無理なく習慣づけられるでしょう。時間の工夫については様々な方法がありますが、追々紹介していくことにします。

また、勉強中のお子様がお悩んでいそうなときに声をかけてあげたり、少しでも学習が進んだら褒めたり励ましたりと、精神的にもサポートしてあげることがとても大切です。特に、褒めてあげることで、子供の「また勉強してみよう」というやる気を引き出せます。子供の気が散らないようにテレビを消したりゲームをしまったりしておくなど、学習環境を整えてあげることも、やる気を維持するために必要なことです。家族も協力してあげてください。

2.「授業についていけないので、宿題もわからないところがある。」

まず初めに、お子様が授業についていけないという点は、率直に学校の責任だと思います。申し訳ありません。職員で研修を進め、これまで以上に「わかる授業」の実践のために授業改善を図ってまいります。

では、学校の授業の改善がされれば、必ず授業についていけるようになるかということ、そうではないと思います。ここでは、家庭での学習の視点で、こちらの悩みについて考えていきます。

○ つまずいたら、わかるところまで戻る

よく言われることですが、確実なのは子供がわかるところまで戻ってあげることです。1、2つ前の段階に戻って、お子様に「△△はわかる?」「◇◇はどう?」と聞いてみてください。例えば、「少数÷少数」の割り算につまずいているなら、「少数÷整数」や「整数÷整数」ができるかどうかチェックしてあげてください。もし、「整数÷整数」がスムーズにできないなら、掛け算の筆算、繰り上がりのやり方などにつまずきがあります。場合によっては、九九につまずきがあるかもしれません。九九の確認まで戻るのは勇気がいりますが、つまずきを発見したポイントまで戻るほうが、学習の積み残しを少なくできます。

○ 子供たちがよくつまずく問題を例に (小学校 5年生 算数「割合」)

問題:ある品物を3000円で仕入れました。仕入れ値の4割の利益を見込んで定価をつけるとします。品物の定価はいくらにしたらよいでしょうか。

※ 立式の仕方は次の通りです。 ①仕入れ値×割合(少数)=利益 → ②仕入れ値+利益=定価

このような問題の場合、「仕入れる」「仕入れ値」「4割」「利益」「定価」と、小学生が嫌いな言葉がたくさん出てきます。問題を数秒見て「全然わかんない」と言い出す子もいます。問題文の意味がわからないときは、辛抱強く教えてあげる必要があります。文章題が苦手だというお子様には、立式するより前に、問題文の「言葉」に戻ってあげてください。

おわりに

「家庭学習応援だより」を作るにあたって、「独学大全(ダイヤモンド社)」を参考にすることがありますが、そこには「やる気」についてこう書かれています。「やる気から行動が生まれるんじゃなく、行動からやる気生まれるんだ。(中略)世間の親も子も、やる気から入って勉強させようとするから失敗する。独学でも同じことだ。やる気は、行動→いい結果→やる気⇒行動→いい結果→やる気…という好循環の中で生まれるものだ。(中略)うまくいかなくて心折れる時はたいてい目標設定がでかすぎる。」